

稲・麦・大豆かわら版

～水稻編(R7年産まとめ&R8年産対策)～

2026.1.15 発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

令和7年産塩谷南那須地域の水稲まとめ

- 収量：前年よりやや低収 水稻生育診断ほの調査では前年比「コシヒカリ」98%、「とちぎの星」93%であった。
- (参考) 国作況単収指数 県北部101 (R6作況指数:101 (平年並))
- 品質：前年より良好 1等米比率はJAしおのや 94.2% (R6:89.6%)、JAなす南 91.5% (R6:86.9%) であった。
- 斑点米カメムシ類：収量・品質に対する被害は平年並であった。しかし、イネカメムシが5市町(矢板市、さくら市、高根沢町、那須烏山市、那珂川町)で確認された。また、塩谷町では、イネカメムシによる基部斑点米が確認された。

1 収量

表1 令和7年産水稻生育診断ほの玄米重(kg/10a) (坪刈り調査)

品種	場所	R7年産	前年比	R6年産
コシヒカリ	塩谷町	523	98%	536
とちぎの星	さくら市	575	93%	620

- 令和7年産の水稲生育診断ほの結果は令和6年産と比べやや低収であった。※生産者聞き取りでは「コシヒカリ」8俵/10a前後の声が多かった。

【低収の理由】

- 5月下旬に平均気温が平年値を下回ったことから、分けつが進まず、1穂粒数が増加し、くず米が増えたためと考えられる。
- 高温によって全量基肥肥料の溶出が早まったことから、幼穂分化期以降に窒素不足となったためと考えられる。(県農研センター「令和7年度水稻全量基肥被覆肥料からの窒素溶出推移」から)

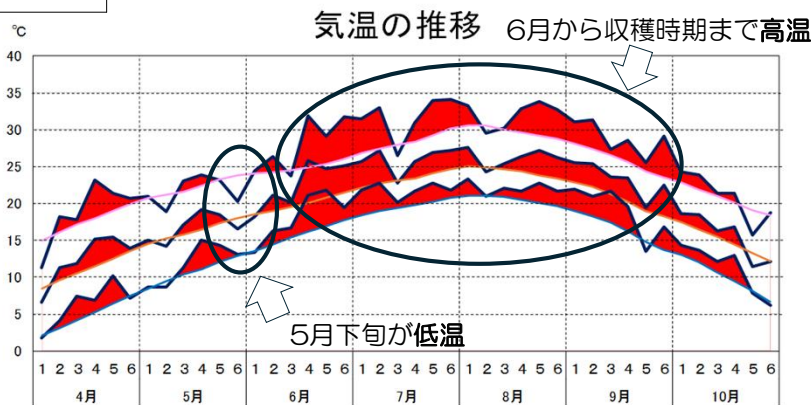


図1 令和7年気温グラフ(塩谷アメダス) 月・半月

2 品質

表2 令和7年産1等米比率(%)

地域	R7年産	R6年産
JAしおのや	94.2	89.6
JAなす南	91.5	86.9

- JAしおのや及びJAなす南の令和7年産1等米比率は令和6年産よりも向上した。
- ※主な等級落ち理由は、①着色粒(斑点米)②乳白米③胴割米
- 品質が向上した理由は、①斑点米カメムシ類の適期防除が行われた、②高温耐性品種の作付割合が増えたためと考えられる。

3 斑点米カメムシ類の状況

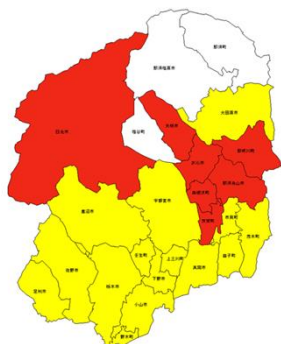


図2 イネカメムシの発生が確認された市町

黄色：令和6年度までに確認

赤色：令和7年度に確認

※栃木県農政部カメムシ防除作戦の検証から引用



図3 基部斑点米

- 県内における斑点米カメムシ類の被害発生程度は平年並であった。
- 管内の一部地域でクモヘリカメムシによる不稔被害が確認された。
- イネカメムシが5市町(矢板市、さくら市、高根沢町、那須烏山市、那珂川町)で確認された。また、塩谷町では、イネカメムシによる基部斑点米が確認された。

次年度以降の対策

⇒イネカメムシが確認された場合、出穂期防除ができる体制を整備しましょう！

令和8年産に向けてのポイント

- 高温対策：高温耐性品種「とちぎの星」の作付けや出穂期追肥を行いましょう！
- 斑点米カメムシ類対策：畦畔2回草刈りと出穂期後の薬剤防除を行いましょう！

4 高温対策

(1) 高温耐性品種「とちぎの星」の作付け

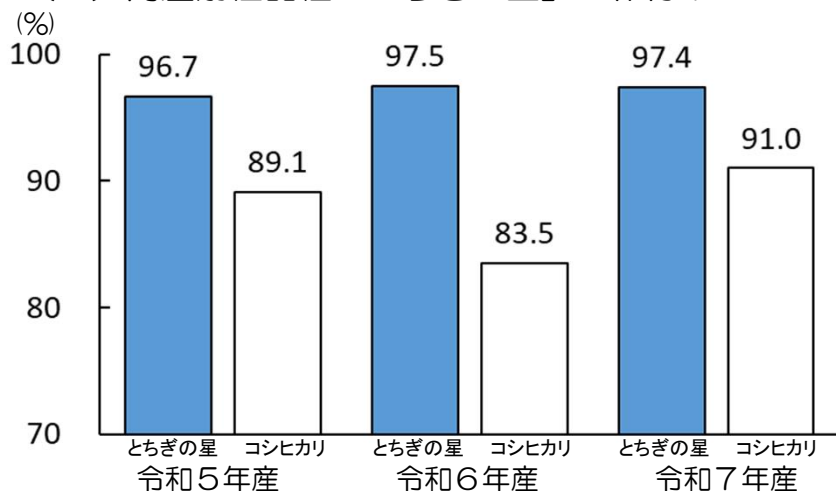


図4 過去3年の1等米比率

※JAしおのや検査結果、令和7年産は10月27日現在

- ・「とちぎの星」は高温登熟性に優れており、近年の高温条件下でも安定して高い1等米比率を維持している。

⇒R8年度以降も夏期の高温が予測されるため、高温耐性品種である「とちぎの星」を作付けしましょう！

(2) 出穂期追肥

- ・「コシヒカリ」に出穂期追肥（硫酸）を行うことで塩谷町で16.3ポイント、那須烏山市で15.8ポイントの整粒率の向上が確認された。
- ・乳白粒率及び基部未熟粒率の低下や高温条件下での品質低下を防ぐ効果も確認された。

⇒高温の影響による「コシヒカリ」の品質低下を防ぐため、出穂前5日の止葉葉色葉色板で3以下、SPAD値で34を下回った場合、出穂期追肥を行いましょう！

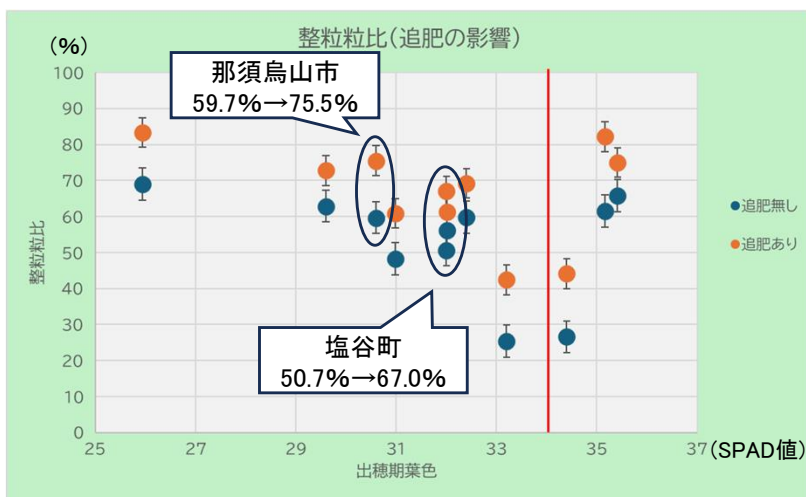


図5 追肥による整粒率への影響

※県農研センター「全量基肥栽培における追肥技術の検討試験」から

5 斑点米カメムシ類対策＜畦畔2回草刈りと出穂期後の薬剤防除！＞

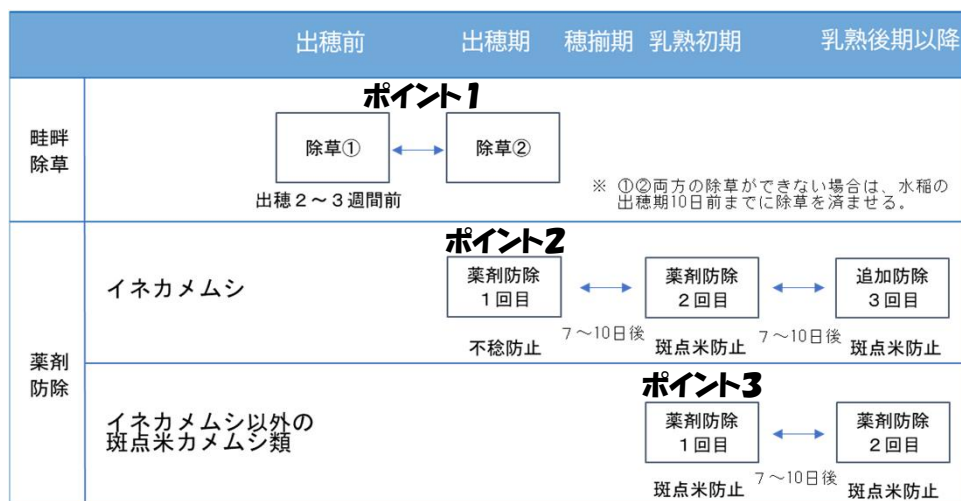


図6 斑点米カメムシ類の総合防除体系

ポイント1

水稻の出穂期2～3週間前と水稻の出穂期頃（草刈りしたイネ科雑草の出穂前）に草刈りを行いましょう！

ポイント2

イネカメムシによる不稔を防止するため出穂期に薬剤防除（液剤）を実施しましょう！

ポイント3

斑点米防止のため乳熟初期に薬剤防除（液剤）を実施し、防除後も発生がみられる場合は、7～10日後に追加防除を実施しましょう！